

答辞

本日は、平野学長を始め、諸先生方に御臨席賜り、私たちのために心のこもった式典を挙げていただき、別科助産専攻修了生一同心より御礼申し上げます。

一年前、助産師に対する憧れと志を抱きながら、宮崎県立看護大学に入学した日のことが今でも鮮明に思い出されます。初めての講義において、学生全員で助産師になるために必要なことを話し合った時、同じ目標に向かっていくスタートラインに立てたのだと実感し、これまで自分が経験したことのない高揚を感じました。新型コロナウイルス感染症対策のため、対面授業が制限されることもありましたが、遠隔授業でも一つ一つ確認しながら講義や演習を進めてくださったおかげで、一人一人が自分の知識や技術を確認しながら前に進むことが出来ました。

保健指導や分娩介助練習は、これまで経験がなく、自分に出来るのだろうか大きな不安を感じました。しかし、限りある時間の中、学生同士で互いに助言し合い、励まし合いながら、先生方からは実習を見据えたご指導をしていただき、何度も繰り返し練習を行いました。一つ一つの課題を乗り越えていくたび、5期生のつながりが強くなっていったように感じます。

分娩介助実習では、出産という命を迎える貴重な場に立ち会わせていただくことに喜びを感じると同時に、2つの命を預かる責任の重さと自分自身の不甲斐なさに心が押しつぶされそうになり、数えきれないほど涙を流しました。先生方はそんな私たちを見捨てず、厳しくも温かいご指導をしてくださいました。苦楽をともにした友人は、ともに悩み、落ち込んだ時には笑い飛ばしてくれました。受け持たせて頂いたお母さん達からはたくさんの励ましの言葉をいただき、自分を鼓舞することが出来ました。たくさんの方の支えがあったからこそ、実習を乗り越えることが出来たのだと感じています。また、新型コロナウイルス感染症が蔓延する中、未熟な私たちを快く受け入れてくださった妊婦・産婦・褥婦、ご家族の皆様、病院のスタッフの皆様に心より感謝申し上げます。

これから、私たちは助産師としてそれぞれ新しい道へと歩いていきます。この別科助産専攻での生活は1年間と長いものではありませんでしたが、様々な考えをもった仲間との出会いは非常に刺激的で、濃密な時間となりました。今後それぞれの道でつまづいたり、壁にぶつかったりすることもあるかもしれませんが、しかし、その時はここでのつながりを大切に、互いに支え合いながら、各々の目指す助産師像に向かって精進してまいります。

本日この晴れの日を迎えることができたのは、教職員の皆様のお陰だと存じます。別科助産専攻修了生一同、改めて御礼申し上げます。そして、助産師になりたいと決意したあの日、やってみたらと背中を押し、支えてくれた家族の存在なくして、ここまで来ることはできませんでした。言葉では言い尽くせぬほど感謝の気持ちでいっぱいです。

最後になりましたが、宮崎県立看護大学の益々の発展とご指導くださいました先生方の御健康と御活躍並びに在校生の皆様の一層の御健闘を心からお祈りいたしまして、答辞とさせていただきます。

令和4年3月16日

別科助産専攻修了生代表 中原彩花